

- View from the Other Side 3
サミラ・グナワラデナ(スリランカ)
- あちこち日本語ご紹介(国内編)..... 4
山口県山口市
- あちこち日本語ご紹介(海外編)..... 5
ハイチ共和国
- 教材紹介 6
日本語能力試験対策アプリ
『留学生のための アカデミック・ジャパニーズ聴解 中級』
『日本語能力試験 N1 模擬テスト(3)』
『日本語能力試験 N2 模擬テスト(3)』
- なんでも情報 BOX..... 8

スリーエーネットワーク

巻頭
寄稿

社会的変動と日本語教育の40年間

佐々木倫子

桜美林大学教授



1970年代の社会的変動

スリーエーネットワークの創立40周年をお祝い申し上げます。日本語教育界も、出版界も逆風にさらされる中、良質の出版を続けられることに心からエールを送りたいと思います。

スリーエーネットワークが創立された40年前の1973年というのはどんな年だったのでしょうか。それは1972年の日中国交回復と1975年のベトナム戦争終結にはさまれた年です。日中国交回復は中国残留日本人孤児とその家族の帰国につながり、1984年に中国帰国者定着促進センターが開設されました。一方、1975年のベトナム戦争終結は多くのインドシナ難民の流出につながり、1979年の姫路定住促進センター、続いて、大和定住促進センター、国際救援センターが設置されました。帰国者も難民も、年齢や学歴が様々で、戦乱のために教育を受ける機会に恵まれず、第一言語でも教育を受けていない、文字が書けない人々もいました。その上、まず日本社会で生活を始めることが来日の目的であり、勉学や仕事が来日目的ではありませんでした。それまで国内の日本語教育の大半を占めていた、ある程度の学歴を持ち、来日目的が明確な学習者を想定

した従来型の教育では対応しきれなかったのです。

コミュニケーション重視の時代

帰国者、難民に加えて、1980年代のフィリピンなどからの女性陣、さらに、インド、パキスタン、バングラデシュ、スリランカ、などからの男性陣の来日は、日本語教育界に第一のパラダイム・シフトを引き起こしました。音声、語彙、文法、表記といった構造シラバスの整理と定着を重視したそれまでの教育に、コミュニケーション重視の流れが加わったのです。しかし、多くの日本語教師がその理念には賛同しましたが、ではどんな教え方をするかとなるとはっきりとはしなかったのです。私自身、コミュニケーション重視の教授法を求めて、Wilkins (Notional Syllabuses; 1976)などを参考に、概念カテゴリー(時間、順序、量、場所、頻度など)とコミュニケーション上の機能カテゴリー(依頼、否定、申し出、不平など)の一覧を作り、それを盛り込んだ会話教材などを準備しましたが、それほど効果を感じませんでした。

学習者ニーズを重視し、会社関係者には会社用語とビジネス・マナーを、サービス業

従事者にはサービス業用語と接客ルールを、主婦には日常生活での有用表現をといった意味での多様性は十分に認識し、異なるシラバスを用意するといったことは普及しましたが、それで劇的な効果が実感できた教師は限られていたと思います。その問題点は、あくまでも日本語教師が適切だと感じる日本語運用の型が確固として存在し、それを覚えてもらうことが教育の基本だとされていた点にあるのではないのでしょうか。日本人同士のコミュニケーションを手本にして作られた“正しい”コミュニケーションの形を、学習者が効率よく身に付けるという、従来型教育と同様の客観的教育観に基づいていたのです。

社会の一員としての学習者重視の時代

Pemberton(1996)は、近年の言語教育では autonomy (自律)が、1980年代の communicative (コミュニカティブ)と authentic (本物)にとってかわる流行言葉になったと述べています(Taking Control: Autonomy in Language Learning, p2)。欧米に少し遅れて、1990年代半ばになると日本国内でも第二のパラダイム・シフトが起きはじまりました。その背景に

は、日本経済がバブル景気と言われた時代の外国人流入、さらに1990年の「出入国管理及び難民認定法」改正施行以後の日系人流入があります。地域の外国人住民は着実に増え続け、外国人と日本人との直接的な接触がますます増加しました。当初は単身者による2、3年の滞在が多かった外国人住民でしたが、国際結婚も増加し、数年以上の長期滞在型の人、日本と出身地域との往復型の人、家族を伴い子どもの教育を考える日本定住型の人が増加してきました。

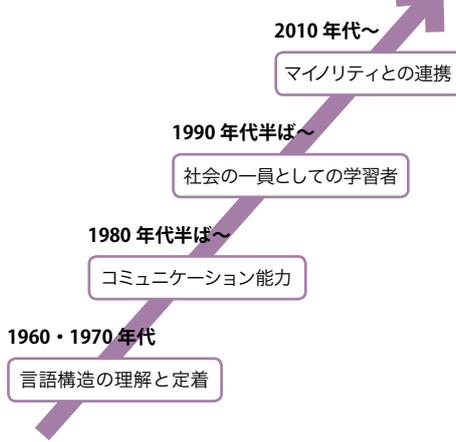
そこで、コミュニケーション重視の流れに、さらに新しい流れが加わることになります。構成的教育理念、つまり、自律的、協働的に日本語能力が構築されていくことを重視する流れです。そこでは、ひとりひとりのメンバーに対して、教室という小さな社会であれ、地域社会であれ、その構成員としての参加が保障されることが重視されます。学習者は「受動的に知識を受け取る人」ではなく「自律的・協働的に自身の学習を進める人」とみなされます。

以上のパラダイム・シフトについては、佐々木(2006)などを参照していただければと思いますが、これはひとつの教育理念が他の教育理念に取ってかわったというわけではなく、新しい流れが加わった、さらなる多様性が認識された状況だと考えていただければ幸いです。

マイノリティとの連携の時代

第2のパラダイム・シフトから、早20年近く経過した現在、21世紀の日本社会はどう動いていくのでしょうか。私はここに「マイノリティとの連携」という表現を当てたいと思います。これからの社会は、ある地域に生まれ、育った、マジョリティと呼ばれる中核の人々だけを視野に置く形では成り立たないからです。マジョリティとマイノリティの連携、マイノリティ同士の連携があってこそ、個人個人も、そして、この社会も成り立っていくからです。地球的な規模の移動・通信の時代であって、いつ、だれがマイノリティになってもおかしくありませんし、どの社会もマイノリティの参加なしには成り立ちません。社会はマイノリティを排斥するのではなく、貢献してもらうことで存続するのです。以前は少数派を意味する「マイノリティ」という概念は、在日コリアン、在日ブラジル人といった民族モデルにのみ用いられていま

図1 国内日本語教育の大きな流れ



した。しかし現在は、民族的な違いだけでなく、障害、性別、年齢、人種、宗教、性的指向等にも拡大されています。近年「単一民族・単一言語国家」の認識にとらわれてきた日本社会にも変化がもたらされ、「多文化共生」「多言語社会」といった言葉が根づきつつあります。以上の流れを図示してみたのが図1です。

ろう者との連携から

「マイノリティとの連携と言うのは簡単ですが、理念と実質行動との間に横たわる深い溝は、そう簡単に埋められるはずはありません。誰でも、無意識に身につけた母語、生活様式や価値観にしたがった行動をとりがちですし、相手にも同様に期待しがちです。そのひとつの例として、最近の私の失敗を書きたいと思います。

2012年に『ろう者から見た「多文化共生」—もうひとつの言語的マイノリティー』(ココ出版)を出版しました。手話を切り口に、言語的マイノリティーとしてのろう者の存在と、日本社会の課題を明らかにすることを目的としたものです。編集にあたって重視したことは、聴者ばかりが問題を論じるような本は作らないということでした。制作関係者の割合は、ろう者9人と聴者7人となりました。幸い本は好感をもって受け入れられ、私は単純に喜んでいました。ところが、ある日、ろう者の著者のひとりから手話DVD版を作らないかという提案がありました。その理由は、1)ろう児が勉強できる、2)ろう者の中の日本語がうまく読み取れない人にも内容を理解してもらえる、という2点でした。私は頭に一撃をくらったような気がしました。ろう者の第一言語としての手話の重要性を主張する本で、第一言語での刊行が頭になかった、私の理念と行動の不一致を痛感させら

れたのです。

そこで失敗を取り戻すべく、手話のできる編集者を援軍に迎えて、DVDブックの制作に取りかかりました。ろう者の著者が内容を日本手話で直接語る講演会を設定し、公開録画するという形です。100の席を埋めるだけの聴衆が集まるのだろうかと思いつつ、簡単な案内を2つのろう者のMLとひとつのfacebookページに流しました。ところが先着順に受付を開始すると、たった3日で定員いっぱいになったのです。

さらに驚いたのは、講演会当日です。プログラムは、4人の講演者が4時間ぶっ通しで講演するものでしたが、欠席者がほとんどいなかった点と中途退場者がほとんどなく、最後まで満員だった点に私は認識の間違いを感じさせられました。

木村(2008)は、ドイツのソルブ語話者の社会と日本手話を話す日本のろう者社会とを比べて「ソルブ人もろう者も、密接なつながりや連帯感をもつ人間関係網(ネットワーク)を形成している点が特徴となっている。」(『バイリンガルでろう児は育つ—日本手話プラス書記日本語で教育を』p.18)としています。私自身、改めてマイノリティ・ネットワークの連帯の強さを感じた夜でした。

日本語教育の仕事は、マイノリティとマジョリティとを結ぶコミュニケーション能力を育てるところにあるのではないのでしょうか。そして、日本語教師の資質はどれだけ文化的背景の異なる人の頭と心の中を想像することができるかで決まり、私自身の例をひくまでもなく、それは非常に難しいことです。解決策はただひとつ、当事者の声に耳を傾け続けること、これに尽きるのではないのでしょうか。

佐々木倫子(ささき・みちこ)

桜美林大学言語教育研究所長。米国アメリカン大学大学院言語研究科修了(M.A.)。専門は日本語教育学。国際基督教大学、アメリカン大学、静岡大学、国立国語研究所等を経て、現職。著書に『日本語教育の新たな文脈』(共著)アルク(2006)、『自律を目指すことばの学習』(共著)凡人社(2007)、『バイリンガルでろう児は育つ』(共著)生活書院(2008)、『地域日本語ボランティア養成講座の検証と実践モデルの構築』(編著)科研費研究成果報告書(2010)、『ろう者から見た「多文化共生」—もうひとつの言語マイノリティー』(編)ココ出版(2012)などがある。



憧れの島で学ぶ「おもてなしの心」をスリランカに

島根県海士町の観光協会で「忘れられない旅」を提供するサミーラさん

大学進学で来日

今から11年前に初めて来日しました。立命館アジア太平洋大学に留学したのが、来日するきっかけでした。高校卒業して、海外に進学したいという意思が強く、アメリカやイギリスの大学を受けていましたが、たまたま高校のキャリアセンターで見た、大学のチラシがとても印象的でした。それには、日本の大学ですが、英語で勉強ができ、しかも世界の80カ国の学生が集まる大学と書かれていました。その国際的な環境にとても魅力を感じ、立命館アジア太平洋大学に進学することに決めました。

コミュニケーションのための日本語

まったく日本語を知らないまま来日したので、最初の一年は日本語の勉強と日本の生活文化になれることで精一杯でした。大学では専門のマネジメントの勉強に他に、日本語の授業もありました。今から考えると専門の勉強よりも、日本語の授業のほうが難しかったです。それでも生活費を稼ぐためには、アルバイトもしないといけなかったので、日本語がすぐに必要で、一生懸命に日本語を勉強しました。

大学の日本語の授業で、書き読みはある程度勉強できても、話せるようになるには、やはり自分から、話し掛けていく姿勢が大切だったと思います。間違ってもとりあえず、自分の意見を伝えたい、相手とコミュニケーションしたいという気持ちが強かったので、その分、話せるようになるもの、早かったと思います。

もう一つ、私の日本語の勉強に欠かせなかったのが、テレビのニュース番組です。たとえば、大きな事件だったり、災害だったりだと同じニュースが何回も流れますそこでわからなかった言葉を一回調べておけば、何回もニュースの中で流れるので、とても覚えやすかったです。そうやって殆ど独学で



サミーラ・グナワラデナ

1981年生まれ

スリランカ民主社会主義共和国ゴール州 出身。

2001年大学進学に伴い来日。

現在、島根県隠岐郡海士町にて、海士町観光協会に勤務。

日本語を勉強して、大学3年生のときに日本語能力試験2級に受かることができました。

海士町という島

2005年にアジア太平洋マネジメント学部を卒業して、日本の企業に就職することができました。最初は旅行関係に仕事に就きましたが、当時、大学の先輩の誘いで旅行した島根県隠岐郡海士町という島が好きになり、2006年からその島で観光に携わる仕事をさせていただいています。

海士町のある隠岐諸島は、島根半島の北方約50kmにある諸島です。180あまりある島々の中に4つ、人が住む島があり、その中の一つが海士町です。人口が2,300人ぐらいいで、半農半漁で自給持続できる島でもあります。

水も空気もとてもおいしい島ですが、私がこの島に憧れたのは、自然環境というよりも、自分たちの島を守るために、一生懸命

頑張っている島人がいたからです。人口減少、財政赤字などこの過疎地も抱えている問題に対して、役場の職員も民間の方も一般の住民も一緒になって頑張っている姿がとても格好良かったです。

「忘れられない旅」を作る仕事

私はその島の観光協会で働いています。島を訪れるお客様に、安心して島旅を満喫してもらえるようにサポートしています。島に高級ホテル、旅館はないですが、海の幸も山の幸もたくさん味わえる、小さな旅館や民宿があります。おかみさんたちがおいしい料理を作ったり、落ちついて、おもてなしができるように、私たち観光協会のスタッフが宿の手伝いもしています。また、一方的に情報を提供するガイドと違って、お客様の要望を聞いて、旅の中でそれを実現させるアテンダーの仕事もやっています。来島するお客様と一緒に旅して、島人ならではの視点で島を紹介して、「忘れられない旅」を提供するのが、私たち、観光協会のミッションです。毎日新しい出会いがあり、喜ぶお客様の顔が見える、とても楽しい仕事です。

今の仕事をスリランカに

私は今の仕事の延長で、スリランカの観光業に携わりたいと思っています。今島で勉強させてもらっている、「おもてなしの心」をスリランカでも実現させたいと思いつた仕事を頑張っています。



お見送りまで続く「おもてなしの心」



日本語ご紹介

国内編

山口県山口市



山口大学の 日本語教育の特色

山口大学留学生センター 福屋利信

新しい形の留学生への就職支援

山口大学には平成 24 年 10 月 1 日現在、340 名の留学生が在籍しています。地理的要因もあり大半は東アジア諸国からの留学生です。平成 21 年度に実施したアンケート調査によると、約 5 割の留学生が日本での就職を希望しています。そこで、「留学生のための日本企業文化理解講座」をスタートさせ、今年度で 3 年目を迎えています。

この講座は、14 回の授業で 14 企業及び団体の代表者が留学生に講義するもので、1 業種 1 企業及び団体とすることでこの講座を通し、日本企業の全体像と各業種間の違いを留学生に理解させることを目的としています。そして、ひいては日本企業に就職を希望する学生が自分たちの就職活動に、この講座で身に付けた基礎知識を有益に活用してくれることを望んでいます。その意味で、この留学生のための講座は、日本人学生のキャリア教育に該当するという理念のもと、共通教育科目として受講留学生には 2 単位を認めています。本年度の参加企業は、エイベックス、ヤフー、山口放送、東洋証券、ワーナーブラザーズ映画、パナソニック、トクヤマ、東洋鋼鈑、秋川牧園、伊藤園、近代文藝社、全日空の 12 企業と就活コンサルティング 2 団体です。将来は山口県内の他大学に在籍する留学生も受講できるようにしたいとも考えています。

「ビジネス日本語」との融合

この講座のさらなる特徴は、各参画企業の講義の前の週に、「ビジネス日本語」の講義で、各参画企業の研究とその業種の研究を十分行ってから講義に臨むというシステムです。一例を挙げると、中国への進出を目

論み、中国の食の安全意識の高まりにビジネス・チャンスを見出そうとする秋川牧園の講義には、「ビジネス日本語」の講義で、中国の農業政策と日本のそれとを比較研究してから臨んだりします。

また、就活コンサルタント団体の講義の前には、日本企業の面接の方法、着眼点などを学んでから臨んだりもします。すなわち、「留学生のための日本企業文化理解講座」と「ビジネス日本語」が関連科目として有機的に結びついています。それにより、両方の講座が活性化し、なおかつ新たな付加価値を生んでいます。

就職支援フェスタの開催

こうして、就活力をつけた留学生に対し、毎年 1 回、「留学生就職支援フェスタ・イン・山口」と銘打った就職説明会も開催しています。第一部で参加企業のプレゼンテーションがあり、第二部で設定された各企業のブースに留学生が個別相談に行くという構成です。この個別面談の結果によって内定を得た留学生も少なからずいます。そうした学生が次年度の「フェスタ」で、会社を代表してプレゼンターを務めたこともありました。参加留学生には、日本企業への就職ができるだけリアルに感じられる「フェスタ」に行きたいと願っています。

ラジオ番組への出演

また、平成 24 年 11 月から、地元の放送局である KRY 山口放送(日本テレビ系列)制作のラジオ番組に、留学生からの発信コーナー(毎月第一水曜日 13 時～13 時半)を設け、すでに 2 名の山口大学留学生が、自国の文化や日本での異文化体験を地域社会に発信しています。この企画は、留学生たちの日本語のスキルアップを図る際の強力な動機づけになっています。出演した留学生は、主観的に自分の想いを述べることから



ラジオ番組に出演中の留学生ヤサラ・ジャユラスさん(スリランカ)

脱して、聴いている人の視点に立って分かり易く自分の想いを発信する能力を学べるはずです。

エンターテインメントとアカデミズムの融合

この放送は平成 27 年 3 月までより充実したものにするために、平成 25 年 1 月 14 日に「留学生からの地域発信：人、メディア、大学」と題した参加型の市民シンポジウムも開催予定です。パネリストは パーソナリティをつとめた留学生たちや番組の制作担当者を予定しています。加えて、シンポジウムの後には、日・中・韓のプロミュージシャンによるライブ・コンサートがあります。山口大学では、新たに雇用した「留学生コーディネーター」を中心にこうしたエンターテインメントとアカデミズムを融合したイベントを定期的に開催し、地域社会と留学生の交流の場を提供して行きたいと考えています。そのほか 7 月 7 日の七夕には、映画「チルソクの夏」の上映会と監督の講演会を予定しています。ちなみに、チルソクとは七夕という意味です。この日にも「日韓交流シンポジウム」を同時開催します。

以上のように、山口大学では、多角的に留学生の支援を行っています。



日本語ご紹介

海外編

ハイチ共和国



ひらがなを練習中

ハイチの日本語教室

日本ハイチ協会 八尾直毅

日本語で挨拶がしたい!

2010年1月12日、カリブ海に浮かぶ小さな島の西に位置するハイチ共和国で未曾有の大地震が発生し、約32万人が倒壊した建物の下敷きになって亡くなったのはまだ記憶に新しいところです。昔からアフリカ以外の国で最貧国と言われ、未だに政権が安定しない中の大災害でした。その年の10月にはコレラが猛威をふるい落ち着きかけたハイチを再び混乱が襲いました。

そんな中、私は義肢装具士という日本語とはいっさい縁のない職業で、建物の下敷きで手足を切断した患者の義足支援にハイチに入りました。悲惨な状況の中での活動、そして悪化する治安、私の心はどんどん蝕まれていったように思います。ちょうどその頃、もう一つのプロジェクトにハイチと日本の少年とのサッカー交流があり、その時にせめて日本語で挨拶したいということで、ハイチのサッカー少年を対象に日本語教室を始めました。その時にはまさか現在の日本語教室に発展しているとは思いませんでしたが。

手探りの青空日本語教室

はじめは瓦礫の中での青空教室でした。私自身日本語を教えたことがなかったのでまさに手探りの状況でした。学校も行ったことのない、字も書けな子供達が、日本語を覚えるなど未知の世界です。サッカー交流までの2ヶ月間、子供達は必死についてきてくれました。

私自身、ハイチの現状の中で心が折れかかっている時に子供達のひたむきな姿、笑顔に会える日本語教室がその時期唯一の救いだったのを感じています。せめて自己紹

介だけでも挨拶が出来るように繰り返し繰り返し練習しました。

そしてサッカー交流の当日、恥ずかしがり屋の日本の子供達とこれまた恥ずかしがり屋のハイチの子供達。案の定はじめの数時間はお互いお見合い状態だったのですが、サッカーの試合が終わった後は昔からの友達のように仲良くなっていました。やはりサッカーの力は偉大だとは思いましたが、必死に習った日本語メモを片手に話しかける子供達の様子を見て感動したのを覚えています。

日本ハイチ協会の立ち上げ

そのまま日本語教室は終わるものだと思っていたのですが、ハイチ人の方からこれからもずっと続けていきたい、という話がありました。ハイチ国内でも、地震後の支援で日本の団体が増えるにつれ日本への関心が高まっていたのです。

そこで2010年9月に日本とハイチの文化交流を目的とした日本ハイチ協会を立ち上げました。現在では日本語教室を中心的な活動として続けています。残念ながら専門職

の日本語教師はいないのですが、在留邦人の協力のもと、歌を歌ったり盆踊りを踊ったり折り紙をしたりと楽しい日本語教室を目指し頑張っています。その甲斐あって現在では100名の生徒を抱える教室になりました。更に日本のNGOに一人就職が決まったことにみなモチベーションも上がりました。

2012年に参加した中米・カリブ海日本語教師セミナーへの参加をきっかけにメキシコ日本語教師会からの教科書の提供や、このJa-Net発行者であるスリーエーネットワークからも多くの教科書の支援を頂くこととなりました。皆様のご支援にこの場をお借りして感謝の意を申し上げます。

今後の展望として、2012年12月にオープンした「日本ハイチ友好の家」を基盤に日本文化教室や映画上映、自然災害教育、環境教育などの実施を視野に入れ、日本語教室の生徒にもっと日本の文化や歴史に触れてもらうことでハイチ復興の力にしてほしいと願っています。

日本語教育レベルはまだですが、これからもハイチ日本語教室を温かく見守っていただけたらうれしいです。



にぎやかで真剣な、教室からあふれそうな学習者たち

教材紹介

日本語能力試験対策アプリ (中国語版・韓国語版) 3月配信予定

日本語能力試験対策のベストセラー『新完全マスター文法日本語能力試験N1』『同N2』対応の iPhone/Android アプリを発売します。

N1・N2レベルの文法形式を意味機能別に学習し、どんな文脈でどのように使うか、どんな文法的性質を持っているか、どのように整理して覚えるのが効率的かを、例文と解説を通して学ぶことができます。アプリには、能力試験合格に必須の「第1部 文の文法」の文法形式を取り上げ、「意味・解説・例文」を翻訳しました。各課練習問題には誤答の解説もあります。

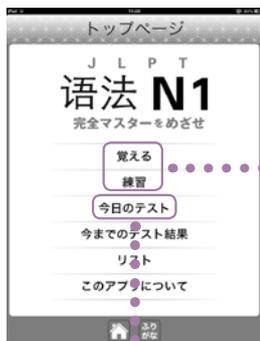
書籍を使って学習している人はもちろん、アプリだけで合格を目指す人にも、自信を持っておすすめします。



2013年3月配信予定 (無料の Lite 版もあります)

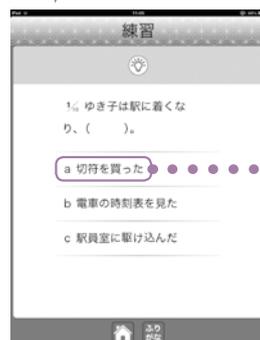
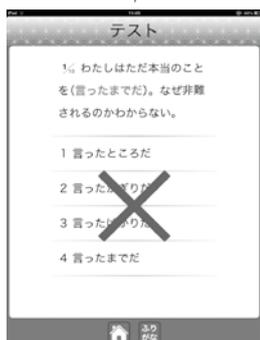
- 1) JLPT N1 級
语法 新完全掌握必背句型 123  
- 2) JLPT N1 문법
新완전마스터 필수문법형식 123  
- 3) JLPT N2 級
语法 新完全掌握必背句型 198  
- 4) JLPT N2 문법
新완전마스터 필수문법형식 198  

このページからスタート!



まずは1つずつ文法形式を覚えます。

覚えたら練習します。



間違ったら、誤答解説でなぜ間違ったか確認。

アプリで取り上げる文法形式の中からランダムに10問出題。過去の得点も確認できます。

問題は課ごとにランダムに出題。毎回問題が入れ替わります。ヒントもあります。

(デザインは変更になる場合があります)

留学生のためのアカデミック・ ジャパニーズ 聴解 中級

B5判 本文 86頁、別冊 32頁 2,100円
東京外国語大学留学生日本語教育センター 編著



アカデミック・ジャパニーズの 聴解力を養成する

東京外国語大学留学生日本語教育センター
坂本 恵

本書は講義聴解を最終的なゴールにした、アカデミック・ジャパニーズのスキルを養成する新しいタイプの聴解教材です。講義のような、まとまった内容のある独話を聞いて、その内容と文章構成を理解し、大事なところを選び取って内容を把握し、さらに要約を書く力を養成します。初級終了程度を対象としています。

各課の構成は次の通りです。

1. 内容に沿ったイラストと、聞く前にウォーミングアップするための質問
2. 本文を二度聞いて、大体的内容がつかめているかを問う○×問題
3. 本文をもう一度聞いて、理解できているかどうかをQ-Aの形式で答える問題
4. 本文の内容を構成を考えながら、ノート、または表の形でまとめる問題。この問題では、段落ごとに内容をまとめる上位概念の語を学習
5. 4の表やノートをもとに、大事なところだけをまとめた要約を書く問題
各課の終わりには、聞き取りのポイントとして、聞くとき、あるいは要約を書くときに

必要な知識があげてあります。要約を書く問題では、最初は穴埋め形式で、要約文に言葉を入れて完成させる問題、次に、要約を書くべきポイントをあげてから書く問題、最後にすべて自力で書く問題と、段階を追って要約を書く練習ができるようになっています。

また、パワーポイントのような資料を見ながら聞く問題もあり、講義や講演などの実際の聞く行動に近い形になっています。見ながら聞く機会は実際には多いものの、苦手な学習者もいるので、それに対応しています。

聴解試験は自作することが難しいので、この教材を授業に使った教師が試験問題として使えるようになっています。この教材で練習をしていけば、まとまった内容を聞いて概要が把握できるだけでなく、要約が書けるようになり、講義を聞く力がつきます。

ご希望の方には以下の資料を提供します。

- ・要約を書くための補足練習シート
 - ・テスト(音声とテスト用紙)
 - ・スライド動画
- 申し込み先等、詳細は本書をご覧ください。

『日本語能力試験N1 模擬テスト〈3〉』・ 『日本語能力試験N2 模擬テスト〈3〉』

B5判 本文 31頁、問題冊子1: 33頁、問題冊子2: 17頁 945円
千駄ヶ谷日本語教育研究所 著



問題はもちろん、 問題冊子・解答用紙も本番さながら

千駄ヶ谷日本語教育研究所
新山忠和

本番さながらの実戦演習!

本書は、日本語能力試験のN1、N2について、問題数はもとより、出題形式、問題冊子や解答用紙もできるだけ本試験に近いものを目指しました。問題冊子を取り外し、付属のCDを使えば、学校の授業でも、個人学習でも本番さながらの模擬試験が実施できます。

厳選された問題の数々!

本書は、千駄ヶ谷日本語教育研究所内で

日々日本語教育に当たっている教師陣が開発しました。作成にあたっては、様々な面から情報を収集、検討し、2012年公式問題集の内容分析も加え、実際に学習者への試行も行い、さらに推敲して作成しました。

苦手な分野が把握できる!

本試験が素点で集計されないため、この模擬テストも得点を集計する形にせず、大問毎に正答数を記入して整理する「正答数記入表」を入れました。テストを行い、解答と照合し、「正答数記入表」で整理して苦手な分野を把握することで、弱点補強に役立ててください。

効果的な対策授業の展開に最適!

本書は〈1〉から〈4〉までシリーズ化された模擬テストです。そのため、効果的な対策授業を展開する上でシリーズとして活用できます。例えば、対策授業の開始時期に〈1〉で学習者の能力レベルと弱点分野を把握し、学習の途中、一定の期間をおいて〈2〉〈3〉を行うことで、学習者の試験に対するモチベーションを維持しつつ、それまでの対策授業の効果把握します。そして、〈4〉を直前の総仕上げとして行います。

こうした活用法は個人的な試験対策にも有効です。また、試験を受験しない人でも自分の実力を測るなど、幅広いニーズに対応しています。

なお、『日本語能力試験N1 模擬テスト〈4〉』、『日本語能力試験N2 模擬テスト〈4〉』は、本年7月に発行する予定です。

補足教材コンテンツ

- 効果的な活用法講座(動画)
<http://www.3anet.co.jp/ja/3565/>
解答用紙
<http://www.3anet.co.jp/ja/2149/>



なんでも情報 BOX

Books ほん

すべて税込価格です

みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版 本冊ローマ字版	2月発行予定	2,625円
みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版 翻訳・文法解説ローマ字版(英語)	2月発行予定	2,100円
みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版 翻訳・文法解説ベトナム語版	3月発行予定	2,100円
みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版 翻訳・文法解説ドイツ語版	3月発行予定	2,100円
みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版 翻訳・文法解説イタリア語版	3月発行予定	2,100円
みんなの日本語 初級Ⅱ 第2版 本冊	3月発行予定	2,625円
日本語能力試験模擬テスト N1<3>	2月発行予定	945円
日本語能力試験模擬テスト N1<3>	2月発行予定	945円
留学生のためのアカデミックジャパニーズ 聴解 中級	2月発行予定	2,100円

40周年記念作文コンテストを開催します！

おかげさまで当社は今年、会社創立40年を迎えます。

そこで、40周年を記念して、作文コンテストを実施します。カテゴリーは二つ、「課題作文」と「自由作文」です。

ご応募はお一人あたり、それぞれ1点ずつとさせていただきます。奮ってご応募ください。



課題作文

大学、日本語学校、地域の日本語教室でご活躍の皆様、学習者の立場で作文を書いてみませんか？ 限られた文型と語彙を使って、ご自身の思いを文章にまとめてください。

テーマ：私の街

あなたのお住まいの街を外国人学習者に紹介してください。

読んだ人が、ちょっと遊びに行きたくくなるような、そんな紹介文をお待ちしています。

条件：

相手の外国人の日本語レベルは初級(『みんなの日本語初級Ⅱ』)終了程度と設定しますので、初級までの学習項目で作成してください。

添付写真は2点までとします。

文字数：1,000字程度(写真使用の場合は、写真も含めて、A4用紙1枚に収めてください。)

自由作文

「課題作文」と違って、こちらは日本語であること、文字数以外自由です。伝えたいことが伝われば、書き方も自由です。

テーマ：教室内のおもしろ、なるほどエピソード

教室の中での学習者とのやり取りで、驚いたこと、へえーと思ったことなど、日本人同士では出てこないような「これぞ」というエピソードをご紹介ください。

条件：

実際にあったことで構成してください。

文字数：1,000字程度(写真使用の場合は、写真も含めて、A4用紙1枚に収めてください。)

賞品：

大賞…ご希望の当社書籍3万円分

入賞…ご希望の当社書籍2万円分、1万円分

締切：2013年5月20日(月) 当日必着

応募方法：メールもしくは郵送にてお願いいたします。メールでお送りいただく場合は、PDF形式でお送りください。

住所・氏名・所属を明記してください。

応募先：〒102-0083 東京都千代田区麹町3-4 トラストイ麹町ビル2階
スリーエーネットワーク 作文コンテスト宛
sales@3anet.co.jp

問い合わせ：03-5275-2722

皆様のご応募をお待ちしております！

第2回「看護・介護にかかわる外国人のための日本語スピーチコンテスト」開催のお知らせ

以下のとおり、スピーチコンテストを開催いたします。

第2回「看護・介護にかかわる外国人のための日本語スピーチコンテスト」

日時：2013年3月10日(日) 13時30分～16時30分

会場：海外産業人材育成協会東京研修センター講堂(東京都足立区千住東1-30-1)

事前申込み不要、参加費無料

主催：海外産業人材育成協会

共催：国際交流基金・京都大学大学院文学研究科・AHPネットワークス

主にEPAによりインドネシア・フィリピンから来日し現在就労中の看護師・介護福祉士、並びに日系人等の介護関係者を対象として行われる日本で唯一のスピーチコンテストです。昨年度第1回目続き、今回第2回目を実施します。外国人の視点から日本の医療・介護について忌憚のない意見が聞ける機会です。

Ja-Net No. 64 季刊ジャネット

スリーエーネットワークという社名は、アジア(Asia)、アフリカ(Africa)、ラテン・アメリカ(Latin America)のいわゆる発展途上国の多くが存在する三つの地域をネットワークでつなぎ、相互理解と友好促進を図ろうという趣旨をシンボライズしています。

2013年1月25日発行

●発行人 小林卓爾
●発行所 (株)スリーエーネットワーク
営業広報部 Ja-Net 編集室
〒102-0083 東京都千代田区麹町3-4
トラステイ麹町ビル2F
TEL: 03-5275-2722 FAX: 03-5275-2729
E-mail: sales@3anet.co.jp
http://www.3anet.co.jp/

●印刷 日本印刷(株)
©2013 by 3A Corporation Printed in Japan
(禁無断転載)

●『Ja-Net』をご希望の方はお名前・ご住所・ご所属を編集室までお知らせください。無料でお送りいたします。『Ja-Net』第65号は2013年4月25日発行です。